

愛知みずほ短期大学アクションプラン基本計画
(2018) の実施確認

Y	P	D	C	A
未着手	計画	実行	評価	改善

○平成30年度

1. 基本目標

- (1) 学修者の主体性を培い、尊重する教育を目指す。
- (2) 正課及び正課外活動による多面的な教育活動により、総合的人間力を有する学生を育成する。
- (3) 地域貢献により、社会から支持される学園づくりを目指す。

2 教育の充実と研究活動

<教育>

- (1) 現存の3つのポリシーを見直し、策定し公表する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年度に全学、学科及び専攻・コース毎の3ポリシーを見直した。

- (2) 平成28年度に策定した3つのポリシーと現行の入試選抜方法との整合性を点検・評価する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

現行の入試選抜方法との整合性を点検・評価できるシートを作成し、活用している。

- (3) 学修成果を可視化する方法について点検・評価し、必要に応じて、教育課程の見直しを図る。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

教育課程を見直し、平成30年度より基礎ゼミを導入した。また、学修成果を可視化するためアセスメントポリシーを決定した。

- (4) 近未来に入学してくる学生に相応しい主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラ

ーニング)の在り方を継続的に検討し、必要に応じて組織的な対応策を講じる。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度に組織的導入について議論を行い、平成29年度に策定したルーブリックを平成30年度に実施した。平成31年度にはアクティブ・ラーニングを実施している教員による報告会を予定している。(平成30年度にはルーブリックをシラバスに公表した。)

(5) 学生の学修成果として、より効果的な正課外学修の在り方を継続的に検討する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成25年度よりインターンシップを単位化し、卒業後の職業を意識した業界関係者による講座や講演などキャリア教育を継続的にやっている。

(6) チューター又は学修コンシェルジュ相互で情報を共有し、本学の特徴であるチューター制度及び学修コンシェルジュ制度の真髄の発揮に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

従来のチューター会をより有効な情報共有の場とするため、平成29年度より各学科、専攻、コースのチューター及びアシスタントチューターに、キャリアセンター長を加え、チューター会を充実させた。原則、毎月教授会終了後に開催し、学生の状況を共有した。また、従来より実施しているチューター会をベースに平成31年4月1日付け学長裁定「愛知みずほ短期大学チューター会設置要項」を策定し、チューターの役割を明確にした。

<研究>

(1) 瀬木学園紀要の更なる充実を目指す。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

研究活動を促し、下記のとおり短大教員が投稿している。

年度	2016年度		2017年度		2018年度	
号数	第9号	第10号	第11号	第12号	第13号	第14号
論文数	8	6	3	14	3	6

(2) 教職員による学内の教育研究発表の機会を設定し、教職員相互の教育研究意識の高揚

をはかり、教育研究を促進する。

Y	P	D	C	A
	○			

平成31年度に研究発表会の実施に向け計画中である。

(3) 研究活動の不正行為を防止するため、監査体制を維持する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年3月15日付け理事長裁定「瀬木学園内部監査室設置要項」により内部監査室を設置した。

3 学生支援

(1) 学生の卒業後における社会貢献の場の拡がりを配慮し、資格の取得及び検定試験への積極的参加にむけて支援の充実をはかる。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

幼稚園教育免許取得のため、平成28年度に現代幼児教育学科の開設準備を始め、平成29年度に認可を受け、平成30年度より設置した。また、オフィス総合コースにおいてはオフィス総合コース充実委員会を立ち上げ、取得できる資格の種類を増やした。

社会人に向けて、平成30年度より専門教育訓練給付実施校として、栄養士、保育士の資格取得に向けて支援を開始した。

(2) 資格を断念した学生へのキャリア形成に対し、支援の在り方を検討し、実施する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

キャリアセンターにおいて、各コース教員と協働し、学生本人と面談し今後のキャリア支援について一人ひとり考えさせている。「大学の学びとキャリアⅠ・Ⅲ」の授業内での進路再構築や「インターンシップ」(自由応募型)の奨励を行い、職業観の醸成に務めている。また、各コースで国家資格や教員免許の取得を諦めた学生には、新たな方向に向けてのキャリア形成に努めている。そうした学生も含め一定の就職率を残しており、引き続き検討している。

(3) 就職活動の支援を更に充実する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

下記の就職支援を行っている。

1. 学内企業説明会(3月、4月、5月、10月)年4回実施 計35社参加及び学内1次試験実施会社増加
2. 学生相談強化(12月末1057名:昨年度3月末1145名)し、来室者増加
3. 卒業生就職相談会実施(11月18日:卒業生42名参加:昨年度実績なし)
4. 文章作成講座実施し、中日新聞「発信」欄にて2名掲載(昨年度掲載実績なし)
5. 1年生保護者及び入学者予定保護者向けの初の「就職ガイダンス」実施予定(2月)
6. 子ども生活専攻学生特化の就職支援(夏期集中)
7. 毎週金曜日 基礎学力補充講座実施(4,5限目)
8. 春・夏の就活プログラム、キャリアアップセミナー、インターンシップ自由応募型、業界セミナーなど実施

(4) 入学時(入学の動機等)と卒業時(満足度)にアンケートを実施し、学生支援にフィードバックする。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年度から入学動機等アンケート、進級時及び卒業時に満足度アンケート調査を行い、教授会に報告している。その結果、アンケート項目の見直しを行い、「人・組織・施設」の視点で改善をしている。

4 教育・研究環境の整備 法人規模で実施

5 社会貢献

(1) 健康志向に沿った学園共通の産学官連携の健康づくりを目指し、全学的に活動する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

短大を中心とした周辺地域に対し、本学として、健康づくりに貢献する「みずほヘルスセミナー」を下記のとおり開催した。

年度	回数	月日	演題	講師	参加者
2016					
2017					
2018	第1回	6/23	縄文時代の食生活	水野 早苗先生	20名
	第2回	7/7	歌って、奏でて、心つないで	原 友美先生	33名
	第3回	10/6	認知症予防運動をやってみよう	伊藤みどり先生	30名
	第4回	11/17	転倒予防のためのボールで楽しく体操	山根 基先生	26名

(2) 大学・短大・高校の特色を活かし、個々の組織としての地域貢献活動（瑞穂区）に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

瑞穂区及び名古屋市に対し、本学の特色を活かして、下記の地域貢献活動を下記のとおり開催した。

年度	連携先	活動名	内容
2016			
2017			
2018	瑞穂区	オレンジリボン活動	毎年11月にバロー瑞穂店とフィール堀田店において、瑞穂区役所とともに「子ども虐待防止」の象徴として「オレンジリボン」を広める市民運動を行っている。
		瑞穂区民まつり	8月4日（土）開催の瑞穂区民祭りに現代幼児教育学科の学生がブースを出し、地域の子どもたち向けの手作り教室を行った。
		男の料理教室	瑞穂区西部いきいき支援センターにおいて、11月1日（木）に「男の料理教室」（講師：横山洋子先生）を開催し、38名の参加があった。
	名古屋市との連携	大学連携講座	12/15（土）に本学にて成田徹男先生を講師に招き、「日本語と文字」の講座を行い、47名の参加があった。

(3) 大学・短大・高校各組織内において専攻コース相当の単位で、当該単位に おける特徴を活かした地域貢献活動をする。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

学科、専攻・コース単位でその特徴を活かした活動を愛知県内を中心に、地域貢献の一環として下記の講座を開催した。

年度	生活文化専攻	食物栄養専攻	現代幼児教育学科
2016			
2017			
2018	11/25 (日) 第2回 みずほ日曜講座 講師：落合高仁先生 講義名：写真家と光～ ポートレートの面白さ と撮影技法～ 参加者数：34名	8/21 (火) 家庭科教諭 食品加工講 習会 講師：水野早苗先生、横 山洋子先生 講義名：イモを使った加 工品 実習名：「こんに やく」「じょうよ饅頭」 実験名：「酵素的褐変」 参加者数：34名（愛知県 内公立・私立 家庭科教 員）	6/24 (日) 第1回 みずほ日曜講座 講師：鈴木安由美先生 講義名：暮らしの中の木工芸～天然木 でコースター作り～ 参加者数：36名
			7/14 (土) 第1回 みずほ・げんキッズ 講師：現代幼児教育学科教員 参加者数：子ども40名、保護者31名、 家族数25名
			11/17 (土) 第2回 みずほ・げんキッズ 講師：現代幼児教育学科教員 参加者数：子ども15名、保護者12名、 家族数10世帯

6 大学・短大における入試対策

(1)「学力の3 要素」による評価の視点に立って具体化したアドミッション・ポリシーについて、高等学校における新指導要領を踏まえた現場にわかり 易い表現であるか検証する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

アドミッション・ポリシーについては、毎年度入試要項の作成時に学科・専攻で見直した上、入試・広報担当および委員会で確認を実施している。高校生視点・入試視点・学科視点でチェック・改変を入れている。例えば、平成28年度から、「生物を学んでくることが望ましい」の表現を高校の進路との情報交換および入学生の実態から誤解を招く表現として削除した。

新指導要領との関連については、高大連携委員会を通じて、高校教諭と確認を得ている。

(2) 入学者選抜方法を「学力の3要素」に対し、多面的・総合的に評価するための方法及びその比重を配慮したものになっているか検証する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成31年度入試要項の作成時点で検証・改変を行い、学力の3要素をベースに入試項目、選抜方法に重点付けし、選抜課程において実施している。

(1) 面接

面接応答、志望理由書

委員会活動、資格、皆勤

(2) 志望理由書

論旨の明確さ(文章のわかりやすさ)、表現力(誤字・脱字・仮名遣い・品性、語彙の豊かさ)、文章の状態(文章量、文字の丁寧さ)

(3) 調査書

評定平均値

平成30年度より共通テスト検討プロジェクトにおいて検討を続けており、平成32年度に最終段階となる。

(3) 多面的・総合的な評価による入学者選抜方法を支える体制として、入試センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度4月1日付け理事長裁定「瀬木学園入試センター設置要領」に基づき、入試センターを設置した。現在は、その任を高大連携委員会が担っている。

(4) 中期的な政策目標として、収容定員の充足を目指す。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

入学定員を確保し、収容定員の充実を図っている。

(5) 志願して入学に至らなかった学生を対象に原因を追求し、その改善に努め、歩留り率の向上に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

辞退者および入学に至らなかった学生については、本人との直接のやりとり、および高校教諭への訪問・電話連絡などでつぶさに理由を確認しており、対処できる理由については、今後の広報活動に反省事項として共有し対策を練る。

年度	入試区分	人数	主な理由
2018	A0入試Ⅱ期	1	指定校入試に切り替え2名
	A0入試Ⅲ期	2	進路変更
	A0入試Ⅴ期	1	他入試で入学
	公募推薦	1	金銭的理由
	自己推薦	1	他大学を選択
	専門・総合学科	1	不明
	一般入試(前期)	7	他学校を選択
	一般入試(後期)	1	不明
	センター利用(前期)	6	他入試で入学等
	社会人	1	他大学を選択
2019	奨学生	1	
	公募推薦(前期)	3	他大学を選択(距離等)
	公募推薦(後期)	3	他大学を選択
	専門・総合学科(前期)	1	
	専門・総合学科(後期)	1	他大学を選択

7. 基本計画を支える財政

学校法人として、公共性・倫理性の高い使命を意識し、基本計画に基づく教育研究等の諸活動実現を支えるための基本的な姿勢として

(1) 収容定員の充足を目指し、教育環境の充実に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

教育環境を充実させることが結果として、充足率UPにつながると考え、幼稚園教諭二種免許を本学で取得できるよう認可を受けた。また、オフィス総合コースにおいて、取得できる検定・資格を増やすなど教育環境の充実に努めている。

(2) 私立大学等改革総合支援事業(特別補助金)に示される教育改革に積極的に取り組み、採択を目指し、学内改善を進める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成28年度～平成30年度、学内改善を進め3年連続採択に繋げた。

①「学力の3要素」に基づく入学者選抜方法を実施する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度入試から、学力の3要素の評価に各入試判定項目がどのように適応しているかを入試広報委員会にて、分類・取捨選択し、対応表にまとめた。平成30年度においては、平成32年度から実施される共通テストへの対応を検討した。プロジェクトチームを立ち上げ、まずは現在実施している入試選抜方法を自己点検した。個別選抜（総合型選抜・学校推薦型選抜）実施における本学の課題を検討した。本学の既存の入試方法において、3つの学力「知識・技能（特に技能）」（本学AP1）、「主体性・多様性・協働性（特に協働性）」（本学AP4）を測る試験に弱点がある都市、その対応について検討した。対応策として、調査書および活動報告書の項目を追加し、その追加項目には、学科、専攻・コースの特徴を反映するため、学科、専攻・コース毎に異なる注釈をつけることとした。新たに小論文を設定し、そのテーマは「建学の精神」の根底にある人間性・資質を問うような課題の考案をするなど、引き続き検討する。

②①において実施した入学者選抜方法に対し、追跡調査法を検討し、その評価をフィードバックする。

Y	P	D	C	A
	○			

毎年、卒業生における「入試×GPA×就職×退学等のクロス集計」と「データ傾向の読み取りを行い、入試広報委員会にて共有・意見交換を行っている。課題については随時改変するなど対応も実施した。（平成31年度入試において、AOⅤ期を廃止し、自己推薦Ⅱ期に変更など）また、今後平成32年度から実施される新たな共通テスト&個別選抜の在り方評価について準備する。

③地域貢献（地方自治体との連携、地方企業等への就職率、地方企業におけるインターンシップ増）に努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

(1) 愛知企業家同友会との連携

平成 28 年 3 月に連携協定を締結した。

(2) 瑞穂区との連携 (PD)

- ・平成 30 年 6 月 27 日に瑞穂区と瀬木学園が連携協定を締結した。
- ・第 54 回瑞穂区小中学校特別支援教育児童生徒作品展 (12/10-16) ～ 12 名 (短大 10 名) ボランティア活動参加
- ・平成 30 年度瑞穂区小中学校特別支援学級卒業式参加 (2/13 : 短大 17 名参加)

(3) インターンシップ (PDCA)

- ・単位型インターンシップ 17 名参加 (昨年度 13 名)。8 社参画企業開拓 (内 6 社新規受け入れ企業) 自由応募型インターンシップ 3 名参加 (昨年度 8 名) と参加数は減少した
- ・瑞穂高校、みずほ短大、みずほ大学の各 3 名が 1 チームで (株) コムラインでの商品開発コラボインターンシップに参加し、瑞穂高校生開発の商品が 1 か月間で 5509 皿販売。名古屋 TV にてインターンシップの様子が 2 回放映された。

(3) 申請予算内容を執行するにあたり、費用対効果を意識し、効果的な取組を検討する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成 28 年度より予算編成時に、組織別ヒアリングを行い、予算の妥当性や費用対効果についての検証を行っている。

8. 大学・短大・高校の有機的連携

(1) 入学選抜方法の構築にあっては大学・短大・高校による合同委員会として 入試センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成 29 年度 4 月 1 日付け理事長裁定「瀬木学園入試センター設置要領」に基づき、入試センターを設置した。平成 30 年度は、高大接続の視点からを高大連携委員会にて、瑞穂高校に大学・短大の選抜方法を説明した。

(2) 学園内指定校推薦による入学者の入学時対応及び入学後の活動について、入試センターで情報を共有する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

キャリアセンター長を中心に、学園内指定校（および指定校以外の入学予定者についても）事前プログラムを実施し、基礎学力・上級学校への就学意識の向上、ピアノレッスン（現代幼児教育学科）、キャリア教育などを実施し、その結果について高大連携委員会にて共有されている。

(3) 再課程認定申請の準備組織として教職センターを設置する。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

平成29年度より検討を重ね、平成30年度に再課程認定申請し認可を受け、完結した。

平成30年10月に教職課程の充実を図るため、同じ名称の教職センターを立ち上げ、「愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学 教職センター規程」を制定した。

(4) 学長および校長は教職員が発言しやすい環境づくりに努める。

Y	P	D	C	A
	○	○	○	○

委員会やWGにおいて、教職員が発言しやすい環境を整え、必要に応じて全体会を開催するなど、意思の疎通を図れるよう努めている。

また、平成30年度よりハラスメント委員会を設置するとともにハラスメント相談体制を整えた。